

2011年10月3日
代表取締役社長 小出 三郎

創立記念日挨拶

皆さん おはようございます。

創立記念日に際して、皆さんにご挨拶を述べたいと思います。

ご承知の通り、会社をとりまく環境は非常に厳しく、昨年の暮れの豪州クイーンズランドの大洪水に始まり、今年に入ってから3月11日発生の東日本大震災、米国・欧州経済に対する世界的な失望感から訪れた超円高、更には燃料油高と、当社の業績もこの四重苦にあえぎ、昨年末頃から急激に悪化しました。昨年のこの創立記念日の時は、若干の期待感を持ちましてスタートを切ったのですが、結果は正に悪戦苦闘の一年でありました。

但し、わが国のみならず海外の同業他社も概ね同じような状況ですので、私たちだけが必要以上に悲嘆にくれることは決してないと思っております。

足元を見わたしますと、やや環境ももち直して、多少明るい兆し、希望の光が一筋見えてくるのではないかと思っております。油断はできませんが、今年の後半あるいは来年にかけて、リベンジのとき来たるという可能性もあるのではないかと予想しておりますので、皆さんと共に楽しみに待ち構えたいと思っております。

一方で、最近同業他社のリーダーの方々から確固たる根拠もなく、将来への不安・悲観がメディアを通じて世間に発信されているのが散見されます。ここで皆さんに強調しておきたいのは、わが業界の大多数の人が皆こういう考え方になったら、その時点で結果は決まってしまうものなのです。マーケットというものは、上げたい人と下げたい人とのギリギリの戦いです。需給関係はマーケットを律するひとつの要因でしかない。船会社、海運マン、皆さん方が抵抗し、がんばらないと負けてしまいます。諦めた方が負け、絶望したほうが負けです。当社においてもぜひ、マーケットの前線にいらっしゃる方、そして銃後を守る方に必死で踏ん張って戦っていただきたい、こういう風に思います。

最近よく思うことがあります。3月11日に大震災があって、あの頃から何かちょっと変わったのではないかと。世間の空気や雰囲気、そして自分も含めたみなさんの、心の中がちょっと変わったのかな、変わりつつあるのかな、と感じます。あるいは5年後、10年後にあの時変わったなと気づくことがあるかもしれません。ライフスタイルなのか人生観なのか。

そして私たちの働く気持ちもいろいろ変わってきているような感じがします。

そしてこのように世の中が変わっても、会社のおかれた環境が変わっても、ぜひみなさん一人一人、己のパワーの維持・増進だけは抜かりなきようしていただけたらと思います。

海運というものは、よくサッカーや野球に例えられてチームプレーだ、集団競技だといわれ

ますが、私は個人技あってこそそのチームプレーだと思います。ぜひ個人技を磨いていただきたい。これは会社のため、皆さん己のためであると思います。

そのためには先ず徹底的に仕事と向き合う、真剣に仕事と向き合う、これしかないと思っています。勉強だ、研修だ、経営の本などは私は不要だと思います。多少バランスを欠いたとしても、多少キズがあったとしても、私個人としましては、個人の力、プロの技の輝き、魅力のほうを取りたい。

つい先ほど、勤続20年の表彰ということで式典をさせていただきました。91年の入社で勤続20年、私は71年入社で勤続40年であります。よくも飽きずに20年も40年も働いて来られたのは、たぶん同じ日というものがあったからであると思います。我々の周囲だけを見渡しましても、大洪水、大震災があったとか、原発事故が大変だとか、世界に目を向ければ干ばつとか、中国で船が大量建造されているとか、もっと身近なところでは新日鉄と住金が合併する、といった非常に多くの出来事が詰まりに詰まっている訳であります。ですから、これからの傾向、世の中のサイクルというのは高速度回転になります。出来事と出来事の日々のインターバルというのも劇的に短縮されてくるのではないかと考えております。勤続20年記念の方は今40歳ちょっとですから、恐らくあと20数年間くらい働かれると思いますが、これからの20年は過去の倍くらい、ひょっとするとそれ以上のスピードで物事が回転するかもしれません。感覚的にはあと20年残っていると思ったら大間違いで、あと10年、あるいは7、8年しか残ってないと考えべきです。同様に今50歳の方は、あと5、6年あるいは3、4年しか働くことができないということになるかと思っておりますので、ぜひ毎日をいとおしんでいただきたいと思っております。

そして今の段階で言いますと、ぜひリベンジの日に備えて、繰り返しになりますが、個人の技を磨いて、知恵を振り絞って日々戦っていただきたいと思っております。

最近当社も大型プロジェクトを追いかけたり、成約にこぎつけたりしておりますが、これらを見るにつけ、仕事というのはひとつの作品、CREATIONであるという意を強くしております。煎じ詰めると仕事は作品、アートだなということを非常に強く感じております。ぜひみなさんにおかれましても、後世に残る、あるいは後輩に残せるようないい作品、おもしろい作品をひとつでも多く残していただけたら、よりおもしろい会社になるのではないかと思います。作品、仕事を残すということは、20代でも、40代でもできる。いろいろなジェネレーションから素晴らしいアートを創り出していただきたいと思っております。

本日は皆さんに3つのお話をさせていただきました。

1つ目は、私たちの生業の生命線でありますマーケット、ここでの戦いは覚悟を決めて戦い抜いていただきたいこと、2つ目は、個人の技を伸ばしていただきたい。これは仕事と徹底的に対峙してほしい、向き合ってほしいということでもあります。3つ目は、ぜひ後世に残る

いい作品、おもしろい作品を残すように心がけて日々を送っていただきたい、ということ
あります。

以上創立記念日ということで、みなさんにお伝えしたいことを申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

以 上